

鉄研通信

学校法人 清風学園
鉄道研究部 発行
発行責任者：顧問 佐藤

鉄研通信 次号予定

- ① 車両工場見学記
- ② 見学者の感想（一部紹介）
- ③ クラブ活動報告

毎日新聞に掲載

おおさか まなびやの宝 よろ

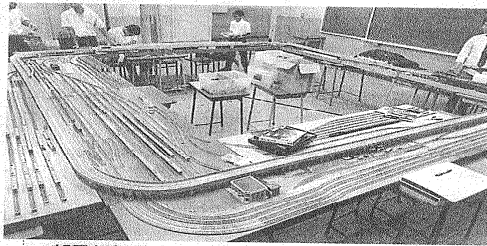
毎日新聞 2/25(土) 2017年

おおさか



5000年を誇る歴史に挑む。撮影好きの撮り鉄や駆動音で車両の制御装置の製造会社が分ける「音鉄」約40人が所属。模型走らば鉄道談話に興じるだけでなく、府内外の鉄道会社に研修も行う。昨年度には創部時の顧問が引退し、鉄道ファン部は、鉄道模型が走る大型ジオラマを代々大切に受け継いでいる。来年度からは初の本格的な改修計画。ホームレスの46号、厚さ約10cmの木製の台8〜10枚から成る。毎回30分かけて組

伝統の大型ジオラマ



部員たちが受け継いできたジオラマ
—私立清風中学・高校提供

私立清風中学・高校鉄道研究部

改良で新たな達成感を

み立てる。4本の本線。他の台にも伸びる考えや高架を備え、部員の。高校2年の尾原愛軍が駅や山などを。校長(17)は「OB背景に走る。文化祭として帰ってきたときその姿に魅され、入どう進化しているか案部を志す子どもも多し。みよ。また、今年度から部員によるテーマ研究を初め、研究発表会などの様子や、全部員が夏台宿の感想などを記す機関誌「第1号」を制作し、活動のPRに活用した。佐藤教諭は「鉄道に興味を持ってほしい」と話した。

【千脇康平】

本校の鉄道研究部が紹介されました

鉄研通信も、第5号の発行以来、皆さんに提供する情報がなかなかなく、そのまま年を越してしまいました。今年も明け、平成二十九年となりましたが、今年も精力的に鉄道研究部の活動を情報発信していきたいと思えます。

さて、本校の鉄道研究部は二月に毎日新聞さんの取材があり、顧問と部長の二名がインタビューに応じました。このような機会があったにないで、二名ともかなり緊張した中でインタビューとなりましたが、本校の鉄道研究部をそれなりにアピールできたと思います。

取材を受けて、改めて本校の鉄道研究部の一番のアピールポイントが、巨大なジオラマであることが再認識しました。新聞に提供した写真は、実はたまたま前部長が私的に撮っていたもので、顧問も部員も誰一人、ジオラマの全景の写真データを持っていなかったのが、本当に助かりました。これか

らは、クラブの様子を皆さんにお伝えするために、ジオラマの全景を含め、活動記録をカメラでできるだけ詳細に記録し、鉄研通信でも紹介していきたいと思えます。

また、皆さんに報告しなければならぬことがあります。実は前号で新しい機材を購入することをお伝えしましたが、高校生部員からもう一度考え直そうという提案があり、購入を見送ることにしました。さらには、新聞記事にもあるように、レイアウト台一枚分の改良を新年度から行う予定です。中学生にも持ち運びやすいサイズに改め、一年間かけてじっくり作り上げていこうと考えています。今年の文化祭までには間に合わないかも知れませんが、本校鉄道研究部自慢のジオラマを体験したい方は、ぜひ文化祭に足を運んでいただければ幸いです。

最後に、このような素敵な記事を書いていただいた、毎日新聞社 会部記者の千脇様に心より感謝申し上げます。さらに活動的なクラブを目指していきます。